

事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

公表:平成30年10月31日

事業所名 児童発達支援 かばくんのいえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		ひとり一人の支援 内容が充実できる スペースを確保 している	
	②	職員の配置数は適切である	8		ほぼ1対1で対応 できている。 出来るだけ充分 関わられるように している	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		静と動の活動空間を 確保し、遊びの内容に 合わせたコーナー作り をしている	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	2	子ども達が安全で使用 しやすいレイアウトや 設置をしています	トイレ・手洗い場が大人用なので 子どもが使いやすいように工夫はして いる
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標 設定と 振り返り)に、広く職員が参画している	6	2		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所 の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握 し、業務改善につなげている	8		今回初めて保護者から 事業所評価を実施 した。9月に実施	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価 表の結果 を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その 結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業 所の会報やホームページ等で公開している	8		今回初めて保護者・事 業所評価を実施した。 9月に実施 11月に公表する	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に つなげている		8		今後、考えていきたい
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保し ている	8		年3回講師を招いての 研修 月1回友久久雄先生 (小児精神科医師)に よる巡回指導 作業療法士・言語聴覚 士さんによる指導を受 けている	今後も、職員の資質向上に向けて研 修を実施していく

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		ひとり一人のこどもの状況を把握し、家庭を含めた支援内容となるよう計画作成をしている	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		使用している	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		そのこの発達と生活環境を把握し、何が必要であるかを明確にした上で、支援内容を設定している	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		常に支援計画を頭におき、日々の支援内容を考えるようにしている	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		日々の支援内容を振り返り、適切であるかを評価し、プログラムを作成している	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	8		している	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		状況により役割分担が変わるときもある	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		こどもが残っている場合は、そのこの担当者以外で振り返りをするようにしている	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		実施	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		モニタリングの文章を作成し、個別の計画の見直しをしている		

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児童発達管理責任者が主に参画	担当職員にも積極的に参画してもらうようにする
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8		主に児童発達支援管理責任者が行うようにしている	
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		運動会を見学したり、必要に応じて園訪問をしている	年1回、かばくんのいえで、並行通園をしている保育園や幼稚園の先生対象の研修会を実施している。今後も継続する。
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		図っている	
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8			
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある				並行通園をしているので、日常的に関わりが持っている
	㉘	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8		参加をしている	
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎時にこどもの状況を伝えたり、家庭での様子を聞くことで、共通理解が出来るようにしている	
	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8		必要な方には実施している。	

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		入所児に説明をし、入所後も必要に応じて対応をするようにしている	
	③③	児童発達支援ラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8		概ねできていると思う	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		最低年3回実施 その他に日は設定していないが、随時対応している	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保証者同士の連携を支援している	8		保護者同士の連携の大切さは、理解しているが、現時点では不十分	保護者の方々が共に思いや悩みを述べられる場を設けるように計画し、実施する
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		相談を受けた時は随時対応できるようにしている	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		随時、必要なことは発信している。	便りを定期的に出すようにする。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	8		個人の文章作成等は職場内で行い、やむを得ず持参する場合は、個人が特定できないようにしている	今後も十分注意することに努める
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		全ての保護者の方々に平等にはいかないが、出来る限り配慮をしているつもり	
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8		講演会などを実施事業内容などの理解を深めてもらい、地域に根ざした施設を目指しています	今後も講演会などを続けていく中で、障がいについて、少しでも理解していただけるように働きかける

非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8		重要事項説明で保護者の方には伝えている。	説明などが十分とは言えない 便りなどで、保護者の方々に詳しく周知する必要がある。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		年2回実施	スムーズに行動がとれるように4回ぐらい実施したい。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8		入所時の面接で聞き取りをし、療育初日に再度確認をしている	
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示響に基づく対応がされている		8	保護者に聞き取りをして対応している	
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		小さな事故が大きな事故にならないように、ヒヤリハットの活用を行っている。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		年1回講師を招聘し実施	常に自分の行動・言動に気をつけ、暖かな気持ちで接する。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記職している				今までの療育の中で、身体拘束を必要とする子どもさんはいない。 身体拘束はしない環境を作るようにする

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。